

辺の様子



湧水地
下流は、多摩川との合流部が近いので、多摩川と野川を行き来する生きものも見られます。また、瀬や淵といった多様な流れが形成され、深いところには、コイやナマズなど大型の魚類が生息しています。

- クイナ：冬鳥 29 cm
- ハクセキレイ：留鳥 21 cm
- セグロセキレイ：留鳥 21 cm
- キセキレイ：留鳥 20 cm



水辺の草地で見られるが、警戒心が強く茂みに逃げ込む。



「チッチチッ」と澄んだ声で鳴く。よく尾を上下に振る。



黒色の顔に白色のまゆ。「ジジジジ」にとごった声で鳴く。



お腹が黄色い美しいセキレイ。清流を好む。

- ヒメガマ：花6~7月 多年草
- ケイヌビエ：花8~10月 一年草
- セキショウ：花4~5月 多年草
- アレチウリ：花8~9月 一年草



茶色の穂を指で押すと種がふれ出す。



穂先に毛がある。水辺や湿地に生える。



ハケの森の湧水地に群生している。



河川敷に繁茂している。

- モクスガニ：甲幅7 cm
- 水生昆虫
- タイコウチ
- ニンギョウトビケラ属幼虫



ハサミに毛が生えている。



4本肢に見えるが、短い前肢が2本ある。

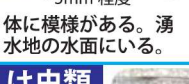


鎌状の前肢で獲物を捕らえ、体液を吸う。

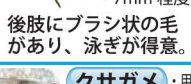


石粒で巣をつくる。きれいな水を好む。

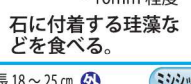
- シマアメンボ
- マメゲンゴロウ
- コカゲロウ属幼虫
- ヒガナガワトビケラ幼虫



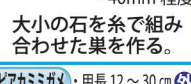
体に模様がある。湧水地の水面にいる。



後肢にブラシ状の毛があり、泳ぎが得意。



石に付着する珪藻などを食べる。



大小の石を糸で組み合わせた巣を作る。

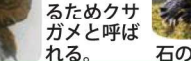
- は虫類
- スッポン
- クサガメ
- ミシシippアカミガメ



甲羅が柔らかく、泥底を好む。



とても臭いにおいがするためクサガメと呼ばれる。



石の上で甲羅干しをする。

上流の緑



- 鳥類
- モズ：留鳥 20 cm
- キジバト：留鳥 33 cm
- ハシブトガラス：留鳥 56.5 cm
- ハシボソガラス：留鳥 50 cm



見かけによらず獰猛。トカゲや昆虫などの小動物を食べる。



「デデポポー」と鳴く。カワラバトと違い1~2羽でいる。



「カアカア」とすんだ声で鳴く。ごみをよく荒らす。



「ガアガア」と濁った声で鳴く。鳴く時におじぎをする。

- アオジ：冬鳥 16 cm
- シメ：冬鳥 18 cm
- ツバメ：夏鳥 17 cm
- オオタカ：留鳥 50 cm



単独で行動する。春先には、やぶのふちや木の枝に姿を現す。



尾が短く、力強いくちばし。かたい種子も割って食べる。



低く飛ぶと雨が降ると言われている。人家にも巣を作る。



河原や大きな公園の樹木にとまり、大型の鳥などもねらう。

- は虫類
- ニホンカナヘビ
- 昆虫類
- オオセイゴウ
- ツマグロヒヨウモン
- ベニシジミ



護岸の上で日向ぼっこしている姿をよく見かける。



青緑と紫が美しいハチ。スズバチの巣に産卵する。



メスは前翅の先が黒い。幼虫の食草はスミシ。



幼虫はギンギンを食べる。成虫は一度に遠くまで飛ばない。

- アオダイショウ
- キタキチョウ
- ツマキチョウ
- ヒメジャノメ



日本最大のヘビ。無毒だが、不用意に掴むと噛まれる。



成虫の状態を越冬するので、早春の頃はよく目立つ。



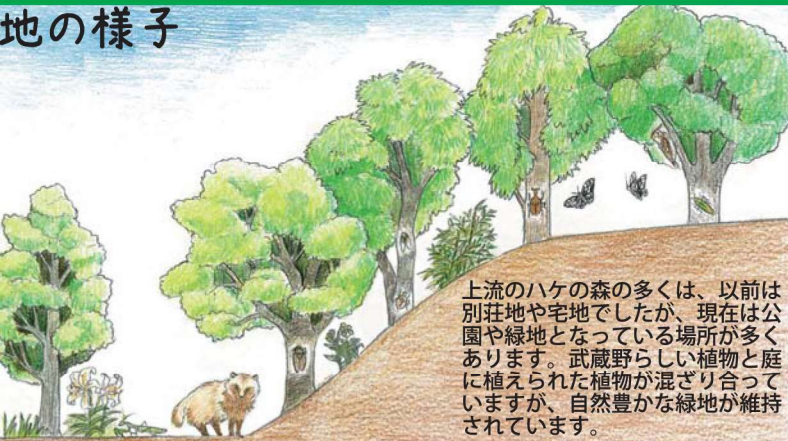
翅の裏がカモフラージュ柄。オスの前翅の先が黄色。



幼虫はイネ科やスゲなどを食べ、成虫は樹液に集まる。

野川流域の緑地の生きもの

地の様子



上流のハケの森の多くは、以前は別荘地や宅地でしたが、現在は公園や緑地となっている場所が多くあります。武蔵野らしい植物と庭に植えられた植物が混ざり合っていますが、自然豊かな緑地が維持されています。

下流の緑



緑地の生きもの図鑑

湧水地

- オナガ：留鳥 37 cm
- ヒヨドリ：留鳥 27.5 cm
- ムクドリ：留鳥 24 cm
- シジュウカラ：留鳥 14.5 cm
- メジロ：留鳥 11.5 cm
- カワラヒワ：留鳥 14.5 cm
- コゲラ：留鳥 15 cm
- アオゲラ：留鳥 29 cm



カラスの仲間だが、尾が長く頭が黒く、羽はきれいな青色。



「ピーヨピーヨ」と大きな声で鳴く。街路樹でも見られる。



秋冬は群れて多い時は数千羽の集団でねぐらを形成する。



のど元から腹にかけてネクタイがあり、太いのが雄。



目の周りの白いリングが目立つ。梅などの花蜜をよく吸う。



ナタネなどの種子に群がる。飛ぶ時翼の黄色の部分が目立つ。



キツツキ類で最小。枯木に穴を開けて巣を作る。



日本固有の大型のキツツキ類。生木に穴を開けて巣を作る。



上空で羽ばたきながら静止し、餌をさがす姿がよく見られる。



夜にネズミなどを狩る。耳がよく、音を頼りに狩りする。



根からデンプン採取し、つるはカゴなどの材料に使う。



とげが多く害草とされる。



夕方に花を咲かせることから名がついた。



つる性の植物。豆は熟すと黒くなる。



直射日光の当たらない場所に生育。有毒。



湿った日当たりのいい場所に生育する。

- ツバメシジミ：4~10月 11~14 mm
- ゴマダラチョウ：5~8月 35~42 mm
- カラアゲハ：4~9月 45~70 mm
- ショウリヨウバッタ：8~11月 50~80 mm
- オオカマキリ：8~11月 70~95 mm
- アブラゼミ：7~9月 53~60 mm
- ツクツクボウシ：7~10月 40~47 mm
- タマムシ：6~9月 25~40 mm



翅にツバメの尾のような突起がある。マメ科の草原に多い。



幼虫の食草はエノキ。落ち葉の中で幼虫越冬する。



後翅の表は青緑色で美しい。春はツツジの花などを訪蜜。



日本で最大のバッタ。イネ科植物が生える草地によく見られる。



丈の高い草地でよく見られる。緑色と茶色の個体がいる。



翅に茶色のまだら模様。「ジジジー」と鳴く。



成虫は7月から発生するが、初秋になると鳴き声が目立つ。



色の美しさから宝石に例えられる。ハケの森で稀に見られる。

- アオスジアゲハ：4~10月 45~55 mm
- ナミアゲハ：4~10月 53~60 mm
- キアゲハ：4~10月 40~65 mm
- オンバッタ：8~12月 20~40 mm
- コバネイナゴ：8~11月 33~44 mm
- エンマコオロギ：8~11月 26~34 mm
- ナミテントウ：3~11月 4.7~8.2 mm
- ナナホシテントウ：3~11月 5.0~8.6 mm



左がアオスジアゲハ、中央がナミアゲハ、右がキアゲハ。雨上がりなど急に気温が上昇した晴天の日には、アゲハ類が吸水に集まる。



小さい個体をおんぶする姿をよく見るが、子どもではなく雄。



田んぼや周辺でよく見られる。側面に黒色の線がある。



日本で最大のコオロギ。翅をすり合わせ「コロコロ」と鳴く。



成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。



背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。



地の様子

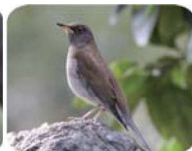


湧水源
下流は、周辺の宅地化が進んだため緑地は多くありませんが、残されたハケの森は、ボランティアによる積極的な活動にも支えられ、多様な生きものが暮らせる豊かな森として維持・保全されています。

エナガ・留鳥・13.5 cm **シロハラ**・冬鳥・24 cm **ツグミ**・冬鳥・24 cm **ウグイス**・留鳥・15.5 cm



樹木の多い公園等で見られる。繁殖期以外は群れて行動する。



腹部が白い。地面に降りて昆虫や木の実を食べる。

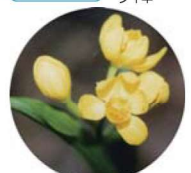


芝地などで2~3歩歩いては胸を張り止まる動作を繰り返す。



「ホーホケキョ」とさえずる。笹やぶなどで姿が見られる。

キンラン・花4~6月・多年草



林に生え、3~10輪位の花をつける。

キツネノカミソリ・花8月・多年草



明るい林床に自生。毒がある。

ヤマユリ・花7~8月・多年草



見た目が豪華「ユリの王様」と呼ばれる。

ニリンソウ・花4~5月・多年草



ニリンソウだが二輪じゃないこともある。

キボシカミキリ・5~11月・14~30 mm



触覚が長い。背中に薄黄色のはん点がある。

アカシジメ・6~8月・17~20 mm



成虫は美しく、コナラやエゴノキなどの果実の汁を吸う。

エゴノキガゾウムシ・6~8月・3.5~5.5 mm



別名ウシツラヒゲナガゾウムシ。エゴノキの実に集まる。

貝類

ミスジマイマイ・4~11月・殻径19 mm程度



殻は右巻き。スジがはっきりしているものが多い。

カブトムシ・6~8月・32~53 mm



夜にクヌギやコナラの木を見て回ると、発見できる。

コクワガタ・5~9月・17~54 mm



日中は樹木の根際や土中に潜み、夜になると活動する。

ノギリクワガタ・6~9月・39~71 mm



長い大あごをもつ。樹木の高い所で休んでいることが多い。

哺乳類

ホンドタヌキ・40~50 cm



活動時間は主に夜間。雑食でなんでも食べる。